



今回の発見!

東海道を歩く(その2)

さまざまな歴史を積み重ねた東海道。県内では、最初は県庁を通っていましたが、平安時代ごろから平塚・茅ヶ崎・藤沢あたりの海岸部を通るようになったそうです。

市内を東西に横切る国道1号は、江戸時代の東海道をほとんどそのまま広げたものです。

前回の「東海道を歩く」(20年1月15日号)では、藤沢の一里塚から茅ヶ崎の一里塚までを紹介しました。今回は茅ヶ崎の一里塚から十間坂付近までを歩いてみたいと思います。

この道を歩き、道が果たしてきた役割や、これからの姿を考えてみたいと思います。まずは、新緑の東海道を歩きましょう。

【生涯学習課文化財保護担当】

④第六天神社

1000坪の社地には、流造りの本殿、欄干造りの拝殿が見られ、祭神の第六天がまつられています。明治40年代の「茅ヶ崎八景」の一景に「第六天の晩鐘」があります。釣鐘は、太平洋戦争で供出され、残った鐘は手水舎として使われています。また、境内には唐中塔などの石仏が見られ、市域有数の神社といえます。



②クロマツの大木

国道1号の茅ヶ崎地区に植えられているクロマツでは一番大きなもので、高さは20m以上、幹回りは2.5mあります。江戸時代中期ごろに植えられたと思われる、樹齢200年ほどの大木です。



①旧寛永寺の石灯籠

市役所の前庭の木々の中に、市指定無形文化財の旧寛永寺の石灯籠が3基建っています。国道に面しているとは思えない静けさが感じられ、春の桜、夏の朝陽も風情があります。

地下道を出てすぐ左手にある「茅ヶ崎市役所」の門札は、高田出身の書家・水越茅村(みづこし・ほうそん)の作品です。



⑤江戸屋

かつての南湖立場の腹本陣です。立場とは、江戸時代、宿場と宿場の間の街道などで、人足・かこなどが休息した所です。文人・太田蜀山人(おおた・しよくさんじん)は紀行文の中で、「しこの屋が、すばらしい味である。船膳を入れた吸物も珍しかった」と江戸屋の印象を記しています。

江戸時代、このあたりは南湖立場の中心で、本陣の前庭をはじめとして藤屋、橋屋、湯老屋などの旅館が並んでいました。※個人宅のため、訪問はご遠慮ください。



③円蔵寺

江戸時代には多くの末寺を持っていた真言宗の中本山。山門をくぐると、陸軍大将・乃木希典の像、ナツメの木、二〇三萬地の岩など、日露戦争をほうふつとさせる品々を見ることができます。

